



旧三原庁舎跡地に公園を整備 防災機能を備えた地域の交流拠点

旧三原庁舎跡地に整備を進めていた「市コミュニティパーク」がオープンしました。約4,600平方メートルの敷地には、天然芝の広場や屋根付きのステージを配置しています。複合遊具やストレッチができる健康器具も設置し、幅広い年代の市民が利用できる施設としています。

また、災害時の緊急避難場所に指定しており、炊き出しができる「かまどベンチ」や救護施設として利用可能な「防災パーゴラ」など、防災機能も備えています。

5月1日開催された竣工式には地元関係者をはじめ、約30人が出席。市こども園の園児たちが風船を飛ばし、ステージで歌を披露して完成を祝いました。



大塚商会から島内3市に寄付 紺綬褒章伝達式を開催

株式会社大塚商会は企業版ふるさと納税制度を活用し、令和6年度に島内3市へ、防災対策資金として多額の寄付を行いました。令和7年11月22日の閣議決定により紺綬褒章受章が決定し、令和8年5月11日に市役所で伝達式を行い、3市長から同社に章記が贈呈されました。

紺綬褒章は、公益のために私財を地方自治体などに多額寄付した個人や団体の社会貢献を国が称え授与する褒章です。

受章した同社の齋藤廣伸取締役は「社会に貢献したいと考えてきた。地域の活性化につながればうれしい」と話しました。



(前列左から)
大塚商会の齋藤取締役専務執行役員兼経営管理本部長、
渡邊賢司トータルソリューションズグループ 上席執行役員

寄付ありがとうございます

国際ソロプチミスト淡路から、島内の3市にそれぞれ30万円分の絵本が寄贈されました。今年と同団体の認証40周年を記念し、将来を担う子どもたちに一層本に親しんでもらいたいとの願いから、南あわじ市では、市内の保育所、幼稚園、こども園に絵本が贈られました。

4月17日、市内の保育所を代表して、広田保育園で贈呈式が行われました。




社会貢献活動の一環として、三原ライオンズクラブから市に三原健康広場の屋外壁掛太陽電池時計が寄贈されました。同クラブは昭和59年、三原健康広場に時計台を寄贈。時計の老朽化を受けて、平成27年に続き、太陽電池時計の寄贈をお申し出いただきました。

4月28日に寄贈式が行われ、同クラブの松井規佐夫会長から市長に目録が手渡されました。



松井会長(右)と守本市長

春の叙勲



久田 文夫さん(神代)

元公立中学校長

瑞宝双光章

久田さんは、昭和45年から38年間の長きにわたり公立小中学校教員として教育に専念されました。南あわじ市を中心に教頭や校長を歴任され、平成16年には広田中学校長に就任。南あわじ市人権教育研究会の中心校として担当教員らと研究を進め、効果的な指導方法の工夫や改善に尽力されました。また、平成19年度兵庫県指定「食育実践モデル校」として、食育の推進に積極的に取り組みました。

ふれあい 市長室

南あわじ市長 守本 憲弘

「伝わる市政」を目指して

先日、ある市民の方から「もっと大胆に、思い切ったことをやったらどうか」とのお言葉をいただきました。

昨今、南あわじ市は、各分野で大きな挑戦を続けています。例えば、鳴門岬の大規模整備。「大鳴門橋自転車道」の開通を視野に、うずまちテラスの新設、道の駅うずしお建替、新駐車場の整備、そして、高速バス停のサービスエリアへの移設とシャトルバスのアクセス道整備など。この地をインバウンドを含めた関西の観光拠点とすべく、国・県の力強い支援も得つつ、人口5万人以下の市ではなかなか取り組めない規模の事業を進めています。

また、子どもたちに人気の、放課後の遊びと学びの時間「アフタースクール事業」や、市民の皆さんが生涯いきいきと活躍する地域を実現する「高齢者等元気活躍推進事業」「シニア元気分け合いプロジェクト」なども、実は、国や多くの自治体から注目を集める先進的な取り組みです。市は、こうした市民生活に直結する事業にも人員や予算をしっかりと投入し、一つひ

今月の内容

P3	市政ひろば 市コミュニティパークがオープンほか
P4-5	みんなでごみ減量化に取り組もう
P6-7	コンビニで住民票などの証明書が取れます
P8-17	お知らせ ・こども誰でも通園制度 ・連合商店街プレミアム付商品券の販売
P18-21	情報瓦ばん 各種催し、相談ほか
P22-23	いきいき健康生活 健康カレンダー、休日応急診療所
P24	みんなの図書館
P25	子育て広場、ケーブルテレビからのお知らせ
P26-27	まちの動き、南あわじの文化財、広報クイズ
P28	家庭で楽しむ学校給食ほか

とつ形にしているところです。

こんなお話もして「なるほど」、と納得していただきましたが、実際、今回に限らず、市民の皆さまとお話する中で、「そんな取り組みをしていたのか」「初めて知った」という声をいただくことも結構あります。もちろん、お褒めの言葉をいただくことも多いですよ。念のため。

行政としては渾身の力を込めて進めている施策でも、その内容はもとより、背景や目的まで十分に伝えることの難しさを改めて痛感します。

行政が作る資料や説明は、正確さにこだわり、言葉が硬く難しくなりがちです。その結果、その取り組みの先にあるワクワク感などが、伝わりづらくなってしまっているように思います。

そんな思いで、従来のSNS発信に加え、このたび公式YouTubeチャンネルを開始することとしました。これまで以上に「もっと身近な市政」を実現するため、新たに登用した広報専門員とのインタビューや映像を使って、私たちの思いをダイレクトにお届けしていきます。文字だけでは伝わりにくい現場の熱気、担当職員の違い、事業に込めた未来イメージなどを、映像を通して「分かりやすく、ワンフレーズで」お伝えできればと思います。

皆さまとの政策情報の共有は、市民と行政との信頼の前提となるものです。シティプロモーション課を中心に、更に「伝わる市政」を実践します。今後の広報に、ぜひご期待ください。

3 2026.6.1発行

2